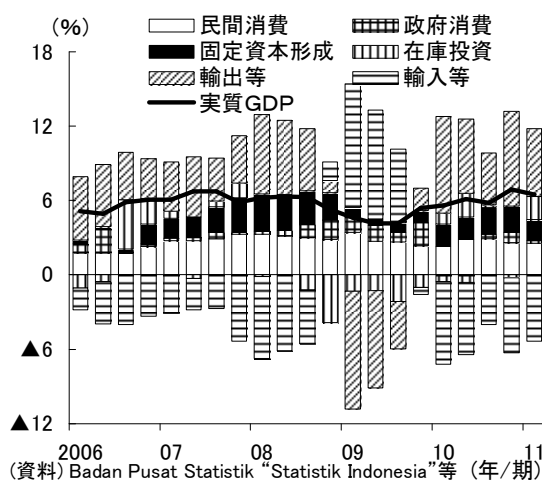


成長力強まるインドネシア経済

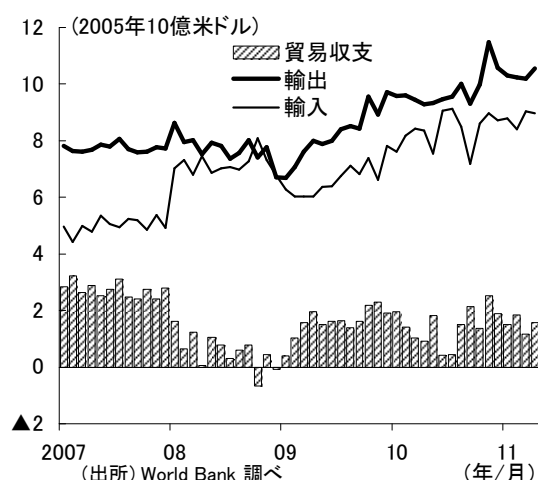
～ 内需に加え、製品輸出が牽引 ～

- (1) インドネシア経済は引き続き好調に推移（図表1）。もともと、2009年末から昨年半ばまでの高成長はリーマンショックの反動効果も作用。しかし、その嵩上げ効果が一巡した後も、昨年10～12月期が前年同期比6.9%、本年1～3月期は同6.5%と、7%弱の高成長が持続。昨年末以降、09年末から昨年半ばまでの6%成長をさらに上回るハイペース。
- (2) 仔細にみると牽引役に変化。従来は個人消費や設備投資など内需主導型。昨年入り後、外需の牽引力がリーマンショック以前に比べて倍増。実質ベースで輸出入の動向をみると、07年から08年末まで輸出が横這うなか、輸入が盛り上がり黒字が縮小（図表2）。しかし、09年入り後、輸入が緩慢な増加にとどまる一方、輸出が趨勢的増勢に転じた結果、黒字が再拡大。なお、周辺のアセアン各国対比、09年初の輸出の落ち込みは際立って小幅。
- (3) 輸出品目の変化をみると、従来は原油や天然ガス、石炭や銅など、鉱産資源を加工せず、そのまま輸出。しかし近年、半製品、さらに肥料やプラスチックなど製品化して輸出する動きに拍車（図表3）。豊かな鉱産資源を活用した製品輸出に加え、機械電機部品や輸送機械など加工型製造業分野の製品輸出も拡大へ。
- (4) 原動力は、リーマンショックに対して発揮した同国経済の強靱な耐久力に着目した外国資本の流入（図表4）。対内直接投資は10年入り後、ほぼ期を追って増大。インフラ整備を含め供給力拡大に拍車。投資増加は所得・雇用環境の改善を通じて国内市場を拡大させ、さらなる投資を誘発。同国経済は投資を呼ぶ高度成長入りが視野。

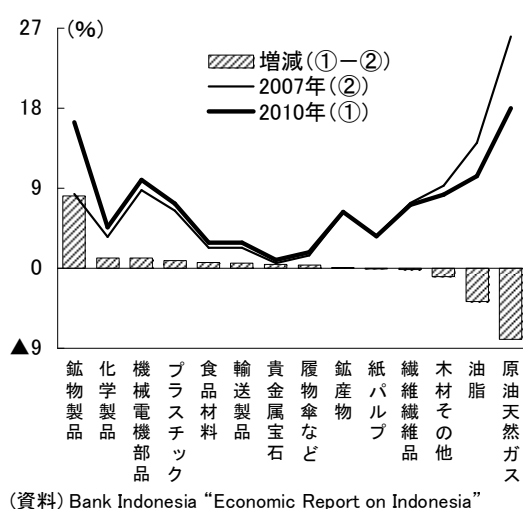
（図表1）インドネシアの実質経済成長率（前年比）



（図表2）インドネシアの実質輸出入（季調済）



（図表3）インドネシアの主要輸出品シェア



（図表4）インドネシアの直接投資と証券投資

